

LNS技術をクラック修理に 電化・青海工場で日本初適用



表面研磨作業（グライン
ディング）

特許品である特殊ネジの特徴は、ネジ山が上向き円錐形状（30度）となっており、クラック部分への挿入により周辺母材を引き寄せる構造である。また、この特徴を活かしたインサートという商品は、破損したボルトホルルの修復が可能で、従来のボルトを利用することが可能。

青海工場の同補修工事

ロックンステッチ
ジャパン

再クラック発生せず

コストメリットも大

ロックンステッチジャパン（本社・新潟市、池田信義社長）はこのほど、特殊ネジを利用してメカニカル的に亀裂の補修を行うLNS技術を、電気化学工業・青海工場（新潟県青海町）のボールドミルに発生したクラック修理に適用した、と発表した。同技術を利用したクラック修理は日本では初めて。

は今年2月21、24日に行われた。過去に発生したクラックを溶接修理した部分に再びクラックが発生したため、LNS技術を利用して恒久的な修理を行ったもの。同技術は熱処理をしないメカニカル修理で、母材が熱変形を起さないうえ、溶接と違って再クラックを発生させることがない。気密の維持を始め、耐熱、高圧にも耐えられる。さらに、①短期間で低コストの修理が可能（必要に応じて昼夜作業も可能）②新たなクラックの広がりや起さない③母材にあわせて母体と同等素材

のピンを利用するため素材を選ばない④火を使えない化学プラントなどの修理も可能といった特徴を持つ。

LNS技術は米国発祥の技術で、韓国や韓国を中心に急速に浸透しつつある。ロックンステッチジャパン社は日本のマーケットに対する独占権を保有、今後は業界・地域

別の二次ライセンスの提供も行っていく。

セメント製造設備のクラックは、従来、溶接しか修理方法がなかったが、LNS技術は恒久的な修理が可能にいた。すでにセメント工場のクラック修理に同技術が使われている米国や韓国では、ボールドミルに加え、ギルンタイヤのクラック

修理にも日常的に使われているという。また、従来の溶接に比べクラックを再発生させない技術のため、設備を長期利用するほど、コストメリットも大きい。

問い合わせはロックンステッチジャパン（TEL 025・370・6622、FAX 377・0033）まで。

